

## 令和4年 病害虫防除指導情報 第4号

作物名：アブラナ科野菜  
病害虫名：ヨトウガ・コナガ

ヨトウガ・コナガの今後の誘殺数が平年より多く推移すると予想されます。  
ほ場を見回り、卵塊やふ化幼虫の発見に努め、早期防除を徹底しましょう。

### 1. ヨトウガ及びコナガの成虫誘殺状況

6月上旬現在のヨトウガの誘殺数は、津軽地域、県南地域ともに平年より多く推移しており、発生盛期を迎えて誘殺数はさらに増加するものと予想される。なお、一部の畑では卵塊や若齢幼虫による食害が見え始めている。コナガの誘殺数は、津軽地域では4月下旬から増加し平年より多く推移している。県南地域では平年より少なく推移していたが、5月下旬から急増している。両地域ともに既に老齢幼虫や蛹も発生している畑が見られている。

今後、気温や夜温の上昇に伴い、両種成虫の飛翔行動が活発となり、産卵量も増加すると推察される。被害防止のため、卵塊やふ化幼虫の早期発見に努め、初期防除を徹底しましょう。

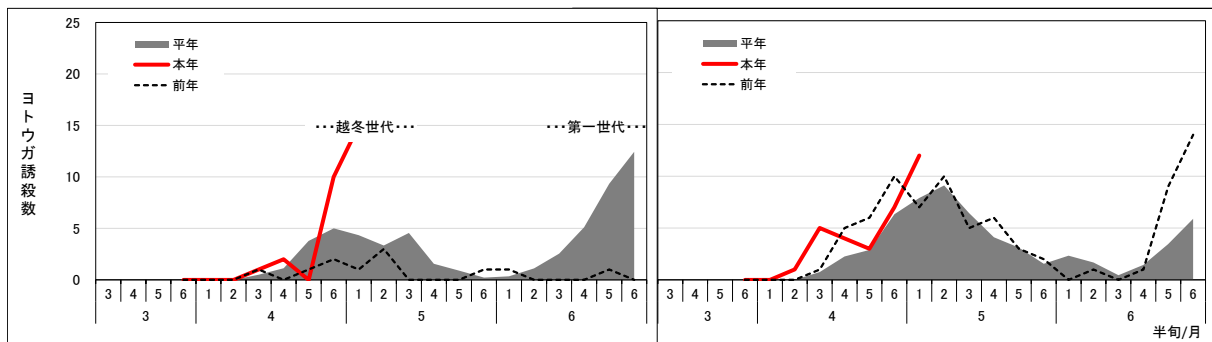


図1 津軽地域、県南地域のヨトウガの成虫誘殺状況

注) 津軽誘殺地点：弘前市清野袋(野菜畑)、 県南誘殺地点：おいらせ町一川目(アブラナ科野菜畑)。

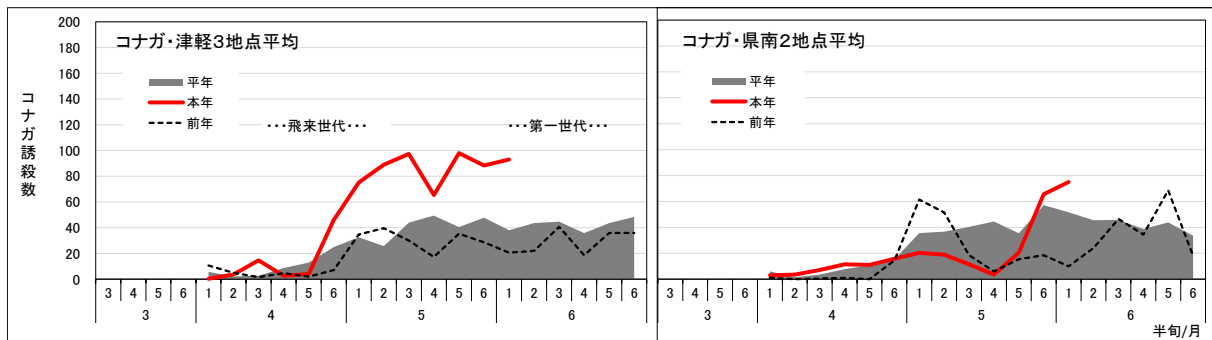


図2 津軽地域、県南地域のコナガの成虫誘殺状況

注) 津軽誘殺地点：弘前市清野袋(野菜畑)、つがる市木造吹原(ブロッコリー畑)、つがる市富滝町(にんにく畑)。  
県南誘殺地点：おいらせ町一川目(アブラナ科野菜畑)、十和田市相坂(にんにく畑)。

### 2. 防除対策

- (1) 生育初期に発生すると被害が大きいため、定植時の薬剤防除を徹底する。
- (2) 老齢幼虫になると薬剤の効果が悪くなるほか食害量も増えるので、ほ場をよく見回り、若齢幼虫のうちに防除する。また、葉裏に産卵することが多いことから、薬剤散布にあたっては葉裏まで薬剤が届くように丁寧に散布する。
- (3) ヨトウガやコナガと同一時期に発生加害するモンシロチョウやウワバ類などの幼虫食害やアブラムシ類の寄生にも注意し、農作物病害虫防除指針等を参考に効率的な薬剤を選択する。
- (4) ヨトウガやコナガは、各系統農薬に薬剤抵抗性が発現しやすいため、同一系統の薬剤を連用しない。なお、コナガではジアミド剤 (IRACコード 28) の抵抗性個体群が確認されているので、同一系統薬剤の散布回数に留意する。

【参考】



〔写真〕 ヨトウガの卵塊・中～老齢幼虫・激甚株

〔写真〕 コナガの卵・中～老齢幼虫・激甚株

卵塊から孵化した幼虫は集団で食害し、成長すると隣接株に分散する。葉に不規則な穴をあけて食害し、さらに葉脈だけ残こすように暴食する。キャベツの結球部やブロッコリーの花蕾内部まで食入し、品質低下の一因となる。

孵化幼虫ははじめ葉肉内に潜孔する。成長した幼虫は、葉裏に寄生して表皮を残して白くかすり状に食害する。触ると素早く後ずさりそながら糸を吐いて落下する特徴がある。暴食されると生育が著しく妨げられるほか、結球部や花蕾部まで食害されて、品質低下の原因となる。

県民の皆さまへのお願い  
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

《この情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 担当：主幹専門員 及川 健  
TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900  
〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6  
E-mail : byogaichu@pref.aomori.lg.jp

※当情報は、青森県農業情報サービスネットワーク「アップル農場：病害虫防除情報」(<https://www.applenet.jp>)に掲載しています。